

総合教育会議 議事録

令和 6 年 4 月 25 日（木）13 時 20 分～14 時 38 分

出席者

西平 良将阿久根市長、中野 正弘阿久根市教育長、大瀧 孝夫阿久根市教育委員、古賀 正男阿久根市教育委員、中野 真理阿久根市教育委員、西園 敦子阿久根市教育委員

事務局

中野総務課長、牧尾教育総務課長、濱崎学校教育課長、中野教育総務課長補佐、落総務課行政係長、山下総務課主任

（進行）

皆様、こんにちは。

会議を始める前に 1 点だけ、御案内をさせていただきます。

本日は、会議を傍聴される方々がお越しでございます。

傍聴に当たりましては、携帯電話の御使用や私語などはお控えいただきまして、円滑な会議の進行に御協力くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、総合教育会議をはじめさせていただきます。

まず、はじめに、西平市長から御挨拶申し上げます。

（西平市長）

はい。本日は、教育委員の皆様方にはお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

教育委員の皆様方には、日頃より、教育委員会における基本方針の決定、学校訪問等各種事業への参加など、多大なる御理解をいただき、改めて感謝申し上げます。

また、本年 5 月 10 日までの任期となっておりました中野教育長につきましては、引き続き教育長として任命することについて、令和 6 年第 1 回市議会定例会において賛成多数の中で、議会の同意をいただいたところでございます。教育委員の皆様におかれましては、本市の教育を取り巻く諸課題の解決や教育の充実、発展に向けて、これまで同様、御協力賜りますことをお願い申し上げます。

さて、本日開催の総合教育会議におきましては、御承知のとおり、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」、これに基づきまして開催するものでございます。地方公共団体の長と教育委員会の連携の強化を目的としており、昨年度に引き続き、学校規模適正化に関することと、新たに部活動の地域移行について協議を行わせていただきます。

なお、学校規模適正化につきましては、昨年度、実施の時期などについて御協議いただいたところでございますが、今回、昨年度の保護者説明会等で出た御意見の集約内容、こちらの方を確認いただくということ、そして、今後の方向性やスケジュール等について御協議いただきたいと考えております。

また、部活動の地域移行につきましては、国において、今後は公立中学校の休日の運動部の部活動を優先して段階的に地域移行を進めていく。このような方針が示されているというところであり、このことについて御協議いただくこととなっております。

教育委員の皆様方の忌憚のない御意見をいただくことをお願い申し上げます。冒頭の御挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いします。

(進行)

それでは、早速、議案に移らせていただきます。

本日の議案につきましては、学校規模適正化に関すること、部活動の地域移行に関すること、及びその他となっております。

議案の進行については、西平市長が行います。

それでは、西平市長、よろしくお願いします。

(西平市長)

はい、それでは皆様方の御手元にあるレジュメに従いまして、先ほど、担当課から説明がありましたとおり本日、御議論いただく内容については、2つということでございます。

まずは協議事項1番としまして、議案の1、学校規模適正化に関することを議題といたします。

この学校規模適正化につきましては、これまでの経過と、昨年開催された意見交換会等で保護者の方々等からどのような御意見があったのか、これについての報告、そして、今後の統・廃合に係る基本的な考え方や方向性の確認、そして、今年度、学校規模適正化に向けてどのようなスケジュール感で進めていくかということについて、教育委員会から説明をまずお

願いたいと思います。

教育総務課長、お願いいたします。

(教育総務課長)

はい、皆様お疲れ様です。

着座にて説明させていただきます。

学校規模適正化に係る報告及び今後の方向性等について、御手元の資料に沿って御説明いたします。

まず、経過報告といたしまして、前回、昨年、7月の総合教育会議後の学校規模適正化協議会ですが、昨年11月16日に風テラスで開催いたしました。この日は、新たに当該協議会の委員として委嘱した21名のメンバーのうち、15名の出席のもと、市内小・中学校の現況と学校の統・廃合に係る今後の方向性等について事務局から説明し、その方向性で進めることについて承認をいただきました。それを受けまして、昨年12月に、各小学校のPTAの会合に合わせて、保護者への説明・意見交換会を実施いたしましたので、資料に基づいて説明いたします。

なお順番が変則になりますが、まず、資料3を御覧ください。資料3でございます。

説明・意見交換会で出された意見等の要約になりますが、主立ったものを抽出して紹介いたします。保護者意見の表現は一定程度、御本人の表現を忠実に記載しておりますので、御了承ください。なお、教育委員会の回答は省略いたしますので、右の欄を御覧ください。会場につきましては、市内の各小学校としましたが、中学校の保護者及び未就学児の保護者へも案内し、どの会場でも出席可として開催いたしました。

最初に、阿久根小ですが、

- ・ 長寿命化計画について、校舎等施設の耐震化はされると思うが、室内のリフォームがなされるのか。
- ・ 統・廃合したときに、教室数は充足するか。

などでした。

次に、大川小では、

- ・ 要望として、現在実施している大川地区の中学生の通学支援について、阿久根中へ通学する際の公共交通機関との関わりなど総合的に考えてほしい。特にダイヤの問題を早急に対応してほしい。
- ・ 複式学級はいけないことなのか。

などでした。

次に、西目小では、

- ・ 学童クラブが校内にあることで現在、安心している。駐車場も敷地内にあり、すぐ迎えられる。駐車場の確保の問題や安全性は、担保が図られるか。
- ・ 以前、学校の統・廃合に関するアンケートで、約8割強が反対していたが、賛成している人もいる。その方々の意見を言える環境を作りたいと思っている。

などでした。

次に、山下小では、

- ・ 統・廃合で阿久根小を活用することになれば、PTAなどの行事の際は車を港に止めていかないといけない。すなわち不便になる。
- ・ 統・廃合後は、現在の学童クラブを活用するとあるが、山下小が阿久根小と統・廃合した場合、学童クラブは山下小となるのか。
- ・ 複式学級はよくないというふうに記載されている。先生は大変だと思うが、別に困ったこともないし、子どもはそれなりにやっている。
- ・ 令和6年度は統・廃合はできなかった、ないと思って安心していたが、また、このような話に来る。取りまとめも教育委員会がすればいい。PTA会長や区長は苦勞する。
- ・ 先のことは考えず、今の子どもたちが楽しんで学校に行っているということを考えてもらい、特認校を残す形も進めていって欲しい。統・廃合の話ばかり、同じやりとりで何も変わらない。阿久根小か山下小かで保護者も混乱し、何をしたいかわからない。

次に、折多小では、

- ・ 現在休校中の学校は令和9年4月とあるが、そこに1年の差がある理由は何か。

などでした。

次に、脇本小では、

- ・ 小中一貫教育の推進について、将来は1校にまとまるのか、その時期はいつか。
- ・ 現在では少年団にあった競技が中学校ではなくなり、また、中学校から新たにある部活動などがあり、進学途中で選択がなくなることについてどのように考えているか。

などでした。

このように、各学校によっても視点や賛否は様々ですが、各会場とも多くの御意見をいただき、活発な意見交換が行われたところです。

続きまして資料4を御覧ください。

学校職員の皆様からも御意見をいただいておりますので、こちらにも主な

意見を抽出して御紹介いたします。

- ・ 複式学習指導では、学習に対する児童の主体性を育てることができるという強みはあるが、多様な考えに触れる機会が限られており、深まりに浅さを感じるが多々ある。生徒指導面では、友達が固定化され、トラブルが起きた場合や意見が合わない場合に孤立して長期化する場合もある。大人数であれば、他の児童との関わりを持つ機会が増え、孤立することは少ないと思う。学習面や運動面では、向上心や競い合う心、お互いを高める心を育てることにやや難しさを感じる。大人数であれば、お互いが切磋琢磨できる環境を整えられると思う。体育の学習では、少人数のため、集団行動、集団ゲームが成立しない、十分な指導ができない。
- ・ 少子高齢化が進む中、保護者や地域住民は、いわゆる子どもファーストの観点から、児童生徒の現状や目指す将来の姿を共有し、地域全体で育てる協働意識を高めるとともに、感情論のみでなく、建設的に学校の統・廃合については議論する必要があると思う。
- ・ 統・廃合の対象になっている小規模校は、どこも特色ある教育活動を展開し、児童生徒の生きる力を育成するために努力している。しかし、少ない人数では、多様な考えの交流に限界があるし、人数が少ないために活動が制限される面もある。複式指導は、2学年分の教材研究や準備のため、職員の負担も大きくなる。そのような観点から、将来的に統合する方向が望ましいと考える。
- ・ 適正規模の学校も小規模校もそれぞれ良さがある。それを踏まえた上で、今後については、保護者の考えや意見を中心に、地域住民の理解を得ながら進めていくことが重要であるが、小規模校の教職員の困り感も大きいことから、教育委員会が総合的に判断して進めていくことが望ましい。

などでした。

他に多くの質問をいただいたところですが、それぞれの意見について、教育委員会で全て回答しております。

次に、A3横の参考資料を御覧ください。

よろしいでしょうか。

A3横の広いペーパーです。

今後の児童生徒数・学級数の推移ですが、こちらは今年度から令和11年度までの6年間の推移を示したものです。

まず、黄色の網かけは、特認校制度を活用した児童生徒が在籍しているクラスであり、横の丸付き数字がその人数です。なお、この特認校制度は

単年度申請となっているため、現在通っている児童生徒が継続したものとしてカウントしております。また、令和7年度以降についての新入生は未定であるため、数字に入っておりません。

前回の総合教育会議でもお示ししましたが、これらの推移で明らかとなっているとおり、小学校は減少は極めて顕著です。今年度は、児童数780人であり、昨年度からも既に42人の減少です。

また、各年度の表の下にはそれぞれの比較人数を示しておりますが、令和11年度には593人と、今年度と比較して、187人の減少であり、これは現在の脇本小規模の1校が無くなるのと同等になります。また、大川小、西目小、山下小、鶴川内小の今年度の合計は97人になりますが、特認校制を除くと72人であり、この数から考えると、その3倍近くの減少となると考えてよいと思います。中学校は、現在の小学2年生から4年生が令和11年度に中学1年生から中学3年生になります。この表で見れば、令和11年度は、本年度との差異は見られませんが、単純計算で、今後15年後には180人の3分の1である60人の減少となるのではと予想されるところであります。

このような現状、背景を踏まえた上で、資料1、学校の統・廃合に係る今後の方向性等についてを御覧ください。

この資料もほぼ前回お示ししたのですが、基本となる内容ですので、再度御確認いただければと思います。

1 ページを御覧ください。

まず、1の学校の統・廃合の基本的な考え方のうち、「(2)適正配置を進めるための基準」で、小学校は複式学級が2年以上続くことが想定される学校に加え、1学年1学級以上の維持を、中学校は6学級以下が2年以上続くことが想定される学校に加え、1学年2学級以上の維持をそれぞれ追加しております。これは、小学校ですが、複式学級のマイナス面についての質問に終始する場合があることから、多種多様な意見を伺いたいと考え、視点を変えた表現を加えたものです。

続く2の「学校の統・廃合の具体的な進め方等」のうち、2までは、これまでと変わりありませんので、詳しい説明を省略いたしますが、2の(1)の基本的な進め方については、改めて読んで共有したいと思います。

基本的な進め方です。

ア 統・廃合の対象としている学校については、学校によって保護者や地域住民の考えや意見等が異なることから、個々の小・中学校の状況等に応じて進めることとする。

イ 保護者、地域住民への説明、意見交換会を開催し、協議等を行いながら進めることとする。

でございます。

次に、(3)の主な留意点ですが、アの統・廃合の目標とする年度については、その手続等に2年間を要することから、その期間を含めたものとしております。また、統・廃合の目標とする年度の2年前に、保護者、地域住民の意見の取りまとめを行い、統・廃合で意見がまとまった学校について、その手続を行うこととしますが、このことは、これまでの意見を踏まえた部分になります。

イについては、意見の取りまとめを行う前までに、保護者、地域住民の意見が統・廃合でまとまった場合は、目標年度を前倒しして手続を行うこととしております。

2 ページを御覧ください。

3 の各学校の対応ですが、基本方針となります。

まず、小学校ですが、大川小、西目小、山下小、鶴川内小の4校については新しい小学校として、阿久根小学校との統・廃合を、個々の小学校の状況等に応じて進めることとしております。なお、スケジュールについては、令和8年3月末までに、保護者、地域住民の意見の取りまとめを行い、統・廃合でまとまった場合は、令和10年4月に、新しい小学校との統・廃合を行うこととします。

次に、田代小と尾崎小についてです。現在、休校としておりますが、令和7年3月末までに、保護者、地域住民の意見の取りまとめを行い、統・廃合でまとまった場合は、令和9年4月、先ほどの4校より1年前倒しで新しい小学校として阿久根小学校との統・廃合を行うこととしております。

続いて中学校です。

鶴川内中について、新しい中学校として、阿久根中学校との統・廃合を行うこととしております。なお、スケジュールについては、令和7年3月末までに、保護者、地域住民の意見の取りまとめを行い、統・廃合でまとまった場合は、令和9年4月に統・廃合を行うことといたします。

中学校については、課題等も大きいことから、まだ早く進めたいとも考えますが、田代小、尾崎小と合わせた年度にしております。また、この鶴川内中の統・廃合が決定するまでの間、折多小の児童については、阿久根中、鶴川内中、三笠中のいずれの中学校へも進学できることとし、その際の送迎等は保護者対応といたします。

続いて、小中一貫教育についてですが、折多小、脇本小、三笠中について、昨年度試行的に導入いたしました。本年4月から本格的に推進、実施することとしております。また、他の小・中学校についても導入について検討することとしております。

続いて、4のその他については、これまでの考え方等を整理しておりますので、御確認ください。

次に、資料2を御覧ください。

こちら前回と内容は余り変わりませんが、今回新たに2の(1)に記載の各小学校の低学年について多層指導モデルである「MIM（ミム）」を全小学校に導入しております。また、先ほども説明いたしましたが、3の(1)記載の折多小、脇本小、三笠中での小中一貫教育を本格的に導入しております。他はお目通しください。

さらに、資料5、6では阿久根市と阿久根中の現況等について、資料7では近隣市町の学校統・廃合についてまとめておりますので、御確認ください。

最後に、資料8では、令和6年度のスケジュールを示しております。

記載のとおり、本年度は、学校規模適正化協議会を計3回、保護者への説明・意見交換会を計3回開催する予定としております。

今後も丁寧に説明を行い、多くの視点からの意見、要望等をいただきたいと考えておりますが、学校の統・廃合は未来を担う本市の宝である子どもたち、児童生徒のよりよい教育環境を整えるためであるという確固たる信念のもとに、保護者や地域住民、関係各位の御理解を得る努力をしてまいりたいと考えております。

私からの説明は以上です。

よろしく願いいたします。

（西平市長）

はい、ただいま教育総務課長から説明があったところでございます。

ただいま、説明の中であったとおりですね、保護者、学校教員、職員の意見、要望、この集約結果についての報告、今後の統・廃合に係る基本的な考え方、今年度のスケジュール、こういうことについて説明がございましたが、このようなことにつきまして、委員の皆様方から、御意見や御質問をいただきたいと思います。どなたからでも結構ですので、何かありましたら、挙手にてお願いします。

（大漣教育委員）

はい、よろしいですか。

（西平市長）

どうぞ。

(大漉教育委員)

この資料7ですね、薩摩川内市とさつま町が、ここに統・廃合の結果なんでしょうかね、ここに出ておりますし、よく私たちも横断幕を見るんですよね。その時に「〇〇小学校、おめでとうございます。ありがとうございます。」とか、そういうのがあるから、おそらく統・廃合して、こういうような結果になってるんじゃないかと思うんですが、そこで質問です。もし、これらの学校が、統合前はどのような現状で、なぜ、統・廃合しなければならなかったのか、そして、その結果、成果はどのようなものが出てきているのか、もしわかっていたらですね、薩摩川内市とさつま町のこの学校の統・廃合前と後の成果を教えてくださいたいと思います。

(西平市長)

はい、今、大漉委員の方からありましたが、何かこの、薩摩川内市とさつま町の統合に関して、情報をお持ちでしたら、少しお話ししたいと思いますが、何かありますか。

(中野教育長)

私の方からよろしいでしょうか。

(西平市長)

はい、どうぞ。

(中野教育長)

すいません。

この薩摩川内市もさつま町も、阿久根市よりはもう少し早く、この学校の統・廃合には取り組んでいまして、本市と同じような、そういった保護者や地域の方々への説明、意見交換会を開催しているということは、私も承知しておりました。

この上の薩摩川内市の黒木、上手、大夷、蘭牟田は、旧祁答院町です。平成の大合併で、薩摩川内市になっていますけれど、旧祁答院町の学校なんです。ここの方々の思いとしては、旧祁答院町から学校がなくなることは避けたいというようなことで、保護者の方からの思いと地域の方々の思いが一致してのこういった取組だったと聞いておりますが、その中には、本市でもちょっと説明していますけど、複式学級に黒木、上手、大夷、蘭牟田小学校は去年の段階でなってるんですね。この表を見ていただくと、

学級数がありますけど、例えば、上手小の6（3）というのは、3は特別支援学級になっていますので、通常学級は3学級で複式学級と。あと、同じように、大裏小は4学級で複式学級で、藺牟田小は4学級で複式学級です。これが今年の4月8日現在で、一つの学校、祁答院小という名前に変わりましたが、児童数が108人になって、学級数が10学級、このうち4学級が特別支援学級ですので、6学級が通常学級ということで、ここが1学年1学級以上になって、複式が解消されたという、そういった経緯です。下の方のさつま町も、同じように取り組んでいらっしゃいましたが、ここも旧薩摩町というところで、薩摩町の学校がやはりなくなることを避けたいということで、求名小と永野小と中津川小学校が一つになりまして、今年からさつま小学校ということで、ここも、その表を見ていただければ分かりますように、児童数が62人とそんなに多くはないんですけど、各学年の学級数が1学年1学級以上確保できているということで、ここも複式学級の解消になっているということです。特に永野小学校は、結構距離的に離れていまして、通学等が大変だと聞きますけど、通学バスを運行しての通学になってまして、ここも同じように、複式学級を解消して、そして先生方も12人と増えてますので、学校運営上もやりやすいのではないかと思います。祁答院小学校も15名という教職員で、学校運営上も効果があると。

（大漣委員）

鶴田小とかよく見るんですけど、鶴田小と下の、何とか。

（中野教育長）

鶴田小とですね、湯田小が昨年かその前に、一つの学校で鶴田小学校というふうに名前をつけて、旧鶴田中学校の跡地に、校舎を建設して新しい学校としてスタートしてます。

（大漣委員）

なるほど、そうなんですね。

（中野教育長）

鶴田町も学校を残したいということです。

（西平市長）

旧鶴田町

(中野教育長)

旧鶴田町で、湯田小は旧宮之城町だったんですけど、湯田小も児童数の減少が激しくて、そこはもう今、さつま町になってますので、湯田小の地域の方々も納得されて。

(大漉委員)

平川とか紫尾とか昔ありましたよね。

(中野教育長)

はい。

(大漉委員)

僕はあの辺にいたもんですから、あの辺もないわけですかね。

(中野教育長)

あそこはまだある。

(西平市長)

平川はまだありますよね。

(大漉委員)

平川小はありますかね。

いや、もうあれもないと思います。

(中野教育長)

そうですか、すいません、ちょっと調べてみます。

(西平市長)

いや、平川、確かに、無いですね。

(大漉委員)

ないですね。

(西平市長)

存在はしてますけど、子どもが通っていない気がします。

(中野教育長)

中学校がもう一つになってるんですけど。

(大漉委員)

どこもやってるんだ。

(中野教育長)

南さつま市もやってますし、今年4月から。それから指宿市も、今年にやっている。やはり小規模校のところを何とかしたいということでということです。

(大漉委員)

わかりました。

(西平市長)

よろしいですか。

(大漉委員)

はい。

(西平市長)

ほか何か、皆様方から何かありますか。

(中野教育長)

なければ、私から良いですか。

先ほど、課長の説明の中にあった、この資料3の保護者への説明・意見交換会のところで、ずっと思ってたんですけど、確かにもう4回以上実施してますので、保護者の方々の多様な意見というのを聞けるようになったことは、大変ありがたく思っているんですけど、一つ気になるのが、ずっとこう、何回も同じように参加してる方々が結構いらっしゃると思うんですけど、その方々の理解が、説明をしてもなかなか正しく理解してもらえないというところでちょっと困り感がありまして、例を挙げますけど、この資料の11ページなんです。11ページのこの26、27、28の質問は同じ方、保護者の方で、もう毎回、出てらっしゃって、大変熱心に、御主人と一緒に大変ありがたいことなんですけど、今ここに質問してあるこういった内

容については、正しく理解されていないんです。令和6年度はしないと言いましたけど、年度を変えただけであって、統・廃合はしないとは言っていないんですけど、このような理解になってしまっている。それから、27番は「無い」と思ってたというところは、「無い」とは言ってないんです。期限を変えますよって言ってるんですね。それと、28のところで、これはちょっとこの前の会では、随分、意見交換をさせていただきましたけど、先のことを考えないで、今のことを大事にしてほしいという考えだったんですけど、先のことも考えて、今のことも大事にするんですよという説明をするんですが、なかなかここがですね、この保護者の思いには入っていないで、確かに、学校を残したいという気持ちはわかるんですけど、先のことを考えないということはないですよ、と私は話をしました。自分の子どもさんのことも将来考えるだろうし、そういったところで、先ほど学校の先生の意見の中に、感情論に偏らずということがありましたけど、感情論で言ってしまうところがなかなかちょっと難しいのかなと。ですので、私たちとしてもしっかりと、今まで以上に丁寧に説明して、御理解いただけないといけないんじゃないかなと。こういった、いつも出てらっしゃる方々の中でも理解が進んでないところが気になっています。ちょっと視点が違います。

（西平市長）

他に何か。

中野委員、何か。

（中野教育委員）

はい、ちょうど、教育長先生の話の中でもあったんですけど、私も幾つか相談を受けてる中でですね、やっぱり、感情論と先ほどおっしゃったんですけど、感情で小規模校にやってしまったけれども、実際のところやってみて、すごく後悔をしていると。教育委員会の方で、また転校ができるのかということで質問したんですけど、転校はできるということで、その保護者の方にも伝えたんですけど、色々考えたときに、例えば転校をするとすると、また、子どもへの負担があるので、すごく後悔はしてるけれども、そのこの学校でやむを得ずっていうことでした。

その他にも、特任制度を利用して、転校した、転校じゃないですね、入学したその保護者からは、すごく後押ししてもらってよかったと。もう自分の我が子は、小規模校じゃないとやっていけないんじゃないかということがすごく不安で堪らなかったわけなんですけど、ちょっと、私も保護

者の立場として、お友達がやっぱり、ずっと1人でしたので。そしたら、行って正解だったとありがとうございましたっていう報告を1年過ぎてから、いつでしたかね、1年過ぎて報告を受けました。ありがとうございましたということで。統・廃合には、もちろんその方も反対されていたんですけど、そういう意見をいただきました。

あと一つ、先ほど、地域の、私も、あそこのなんでしょう、保護者への説明会とか意見交換会に、阿久根小学校は、行ってないんですけど、幾つか出席した時に、他の市町村は統・廃合が進むのに、どうして阿久根市は進まないのかっていう、御意見をいただきました。その中でですね、自分はその地域に住んでるから、大きいところに行きたいと思っても声を上げられないと。こうして意見を言われる方々、何度も同じことを言われる方もいらっしゃるんですけど、そういう人たちは、多分、自分の意見を持っていらっしゃって、意見を言える人。でも意見を言えない人も中にはいるんだよっていうことを、ちょっと理解してほしいなということを感じました。その方は、また勇気を持って発言をされたんですけど、なので、できれば、進めてほしいっていう感じの声、そんな感じの御意見でした。そんなことを考えると、やっぱりこの小学校時代に培わなければならない様々な体験活動は、もちろん何ていうか、特色ある教育活動は各小規模校してるんですけど、それは、そこでしなくてもできること、でも、子どもたちが育ち学び合うには、お友達の存在ってすごく私は大事ななというふうに思っているところです。実際、阿久根小学校の学童クラブと鶴川内の学童クラブと行ったわけなんですけど、他のところも、人が足りないの、今、転々とするとはあるんですが、その中で、やっぱり多様な特性を理解するのは、阿久根小学校の子どもたちは、もちろん喧嘩もあるんですけど、すごく理解してるなあというふうに感じます。特別支援の子どもたちも輪と一緒に入るというか、それこそ、いわゆるインクルーシブ教育が、子ども同士の中で大人が関わる、関わって教えたんじゃないくって、子ども同士の中で学びあえているのかなと感じました。鶴川内では、「タケノコ学級」というのが、知的学級であるんですけど、タケノコツンツンってして、指を2本立てて、こんなこともすることもあって、おやつを食べるのを別のテーブルで食べてたんですけど、そこは私もちょっと行ってビックリしたところでした。それは、学校との連携を取って、校長先生に、「学童ではこういう実情です。」と。で、今、そういうことが無くなりました。けど、今も、そういうところで課題があるところが、たくさんあるっていうふうに感じているところなので、やっぱり子ども同士の学び合いは、大人がどんなに指導しても、スモールステップではありますけど、や

やっぱり子どもたちの中での成長っていうのは、やっぱり人は人で磨かれる、子ども同士の中での成長が大きいかなというふうに感じるので、この複式学級の解消というのは、やっぱり重要な課題であるのかなあというふうに思うところです。

（西平市長）

ありがとうございます。

貴重な体験の中から、また実際、足を運ばれて伺った御意見ということですので、しっかりと受け止めてまいりたいと思います。

あと他に何かございませんか。

西園委員、何かございますか。

（西園教育委員）

はい。

この参考資料の3の中で、やっぱり保護者の意見を見ていると、両方とも共感できる部分もたくさんありまして、やっぱり途中から学校が変わるっていうのはやっぱり保護者にとっても、子どもたちにとってもやっぱり色々、不安と環境が変わるっていうのはとても不安の中で、たくさん的人数の中で学ばせたい気持ちと、やっぱり今の現状でやっぱり落ちついてるじゃないですけども、その環境が整っているのであれば、そのままでいいっていう気持ちももちろんあると思いますし、そこをどう、どの時点でっていうのがなかなかやっぱりこの進まない理由の一つだと思うんですけども、その中で、このたくさんの意見をお互いに共感して、この部分は先に進めないといけない部分だっていうのを段階的にやっぱ進めていかないと、やっぱり学校によっては、学年1人だったりとか2人っていうところもありますし、でも保護者と子どもにとっては、それでも大丈夫っていう立場の方もいらっしゃると思うんですけども、小規模、実際、私の子どもも小規模校だったんですけども、小規模校なりにやっぱり一人一人の役割も大きくて、責任感もあって、他学年との関わりもあったので、すごく優しく育ったなっていうのもありますし、でもやっぱり大きなところに行くと、何か、ちょっとやっぱり、すぐには馴染めなかったりっていうところもあるので、良いところとやっぱりですね、そこを、段階的っていうか、この意見にもあるんですけども、阿久根小学校で、色々な小規模校の交流っていうのが、やっぱり進めたほうがいいっていう意見もあるので、少しずつ、補えるところが、阿久根小学校の全体の小学校で交流を、行事の予定とかもありますけれども、そういう回数を少しずつ増やしてい

って、他の学校の同じ学年の子たちと話をしたりとか、色んな意見を交わすっていうのも大事だと思うんで、その中でやっぱり子どもたちは育っていくと思うので、そういう形で、小規模校同士だけではなく、阿久根小学校との、例えば協本のほうでも、交流の機会っていうのを増やしていったら、少しずつですね、少ない人数だけではなくて、そういう機会を増やしていくと、子どもたちもまたやっぱり人数多いと、また活動も違うよねっていうのも分かってくると思うんで、そういう形で進めていくのもいいのではないかなと思っています。

（西平市長）

ありがとうございます。

他に何か、古賀先生、いかがですか。

（古賀教育委員）

学校のね、今、現在休校してるっていう学校ですね、田代小とか尾崎小学校。

こういうところは、もう統・廃合でまとまった場合はという、一応表現にあるんですが、休校というところはもうまとめていく、これを積極的にですね、休校していくとか、子どもが1人なり2人なりっていう校区もいると思いますから、やっぱりもう先行して積極的にまとめていく必要があると思います。

ですから、何年か経てば8年までにということじゃなくて、今年中に、具体的に区の代表とか、区長とか色々いると思いますので、そういう人たちと語りながら、まず休校をしている学校は、統・廃合で進めていくことが必要じゃないかと思っています。

（西平市長）

はい、ありがとうございます。

（中野教育長）

今、古賀委員の質問に補足してですね、今、休校にしている学校で、田代小校区にはもう、小学校に通う子どもはいないです。

尾崎小学校は、現在、2年生と6年生に子どもさんいらっしゃるんですが、この保護者は、もう山下小学校の方に、通わせるということで、この2年生の男の子の下にもう1人子どもさんがいらっしゃるって、弟さんがこの子どもさんが令和9年に、入学予定の子どもさんです。ですので、ここ

を令和9年と設定したのは、この子どもさんの通学について、保護者の方がどう考えるかというところでも大事にしたかったもんですから、この令和9年という設定したという経緯があります。

田代小の場合は、もう保護者の方たちが、阿久根小学校、阿久根中学校の方の学校に通わすということで、早い段階で決められて、休校にしたんですけど、地域の方々の中で、やはり学校を残してほしいという、そういった住民の方がいらっしゃって、その意見を尊重した形で、今回休校という対応にしているところで、現在、もう子どもさんたちがいらっしゃらないので、古賀委員が言われるように、私たちが言うのはちょっと難しいのかもしれませんが、もうその方向で進めていくことが大事かなと。

先ほど薩摩川内市とさつま町の学校の統・廃合を説明しましたが、この学校の休校という対応とってないんですよね。今、休校という対応をとっているのは、この陸続きのところでは、阿久根市とあと桜島に学校がありますけど、この学校も令和7年度でしたかね、新しい学校でスタートしますので、休校という対応をとらなくなってしまう。だから陸続きではもう本市だけの対応なので、ここもちょっと改善しなきゃいけないかなと。ただ、離島の方はまだあります。そういった経緯があるということを御理解ください。

（西平市長）

まだ何か、御意見等ございますか。

（大漣教育委員）

はい。

（西平市長）

どうぞ。

（大漣教育委員）

この、一覧表が出てきてるんですが、私はこれも見ながらですね、やっぱりこの統・廃合を進めるというのはやっぱり子どもを中心に考えてほしいということで、もちろん地域の声も大事なんですけれども、やはり子どもの未来をどう保障していくのかっていうのをやっぱり基本じゃないかなと。ということはですね、ずっと見ていけばですね、もう近々、複式学級が中学校で起こってくると。複式になりますと、中学校というのは専門教科ですよ、全部。これはどうなっていくのかということですよ、専門が。

というのは、僕は今この年齢で77歳で、ある高校に行ってるんです、非常勤講師で。そこで、少人数でやってるんですよ。5、6人なんですが。その5、6人の中ですね、学習指導要領が、主体的対話的学習とか、あるいはコミュニケーション能力を社会に出るために育成しなさいとか、あるいは体系的実地的学習をしなさい、そういう資質能力を育成するんですよと謳ってるんですよ。私は、あの人数じゃできません。4、5人じゃ。ただ、検定の合格で、3級合格をさせなさいよって言うから、その検定の合格は、そういう意味でできますけど、幅広い人の意見を聞いたり、みんなで協力協働して、そして幅広く人間として社会に出ていく、こういうような学習指導要領を謳っていることは、僕にはできません。はっきり言いまして、この人数じゃ。だから、やっぱり子どもを中心に考えた場合は、小・中学校の段階から、やっぱり、学習支援も付いていますから、徹底して学習は学習でやりながら、人の意見を聞いたり幅広くして問題解決をしていく力をやっぱり作っていくべきじゃないかと、それを今考えているところです。だから、もう古賀委員も話がありましたけれども、地域の声も聞いていくのは大事ですけども、場合によっては、もうパッと推し進めることも、子ども中心の、やっぱり教育改革じゃないか、環境作りじゃないかと私は思いますから、もう機会があったら、積極的に進めてほしいということですよ。

(西平市長)

ありがとうございます。

他、何かございますか。

(中野教育委員)

はい。

(西平市長)

どうぞ、中野委員。

(中野教育委員)

あと、いつも気になるところです。

これ、命に関わることなんですけど、今、大川小学校の裏手の山に、昔から大きな石があるんですけど。

(西平市長)

大川小学校？

(中野教育委員)

大川小学校。

(西平市長)

ああ、わかりました、わかりました。

(中野教育委員)

で、大川小学校の急傾斜地も崩壊対策工事は、もう何十年も前には済んでるんですけど、その大きい石が落ちてこないかっていう不安も、やっぱり大雨が降ったときには感じるところです。

あと、西目小学校も海拔2メートルなので、この前、沖縄で津波警報があったときに、3メートルっていう情報が入ったときに、私は何か、もう西目小は、実家が西目なので、もう、すぐ、海沿いで2メートル、海拔2メートルなので、もう何か、もしそういう津波が来たときには、もうなくなっちゃうなとか、色々、感じたところです。

あと、鶴川内小学校の上手の方は、あそこは、県の土砂災害地域に指定されて、実際私たちも子どもたちを、もしそうなった場合に避難経路を探したんですけど、あそこは高松川も隣接してて、もし高松川が大雨で決壊したら、あそこの何て言ったらいいんですかね、集会施設が、避難場所になってるんですけど、そこまではいけないよねとか、じゃあ、そうなれば山下の方の抜け道が、そっちの方に、行くことかなあとか、だけど、そうした場合に、どこか避難するところがあるかなあという風に、色々考えたところなんで、そういったところも何か不安があって、子どもたちの命をどう守っていくのかっていうのも私たち大人の大事な大事な役割なのかなというふうに感じるところです、今は、ちょっとした不安材料ですね。

(西平市長)

現状の小学校の立地を考えた時にですね。

(中野教育委員)

そうですね、はい。

(西平市長)

わかりました。

他に何かございますか。

(中野教育長)

良いですかね。

(西平市長)

はい、どうぞ。

(中野教育長)

先ほど大瀧委員が言われた地域の方々はですね、各小学校区、恐らく、反対であると思うんですけど、保護者の意見がそのような方向であればという形になってる方が多いというふうに感じます。ただ、全員参加しての会ではないので、詳細は分かりませんが、そういった意見が、地域の方々の意見の中で、昨年実施してませんが、多く聞かれるようになってきているというところですね。そして、もう一つ補足説明で、大川小学校の子どもたち保護者の方から、通学バスの件の要望が出てたんですけど、これ実際、中学校に行って子どもを集めて、課題等を把握しましたら、朝の時間帯は、時間帯が変わって、7時台にもうバスが出ますので問題ないんですけど、今度は帰るバスの時間帯で、部活動の子たちが、今ある6時台の時間に間に合わないということが分かったんです。それで、学校側に相談をして、待つ時間は教室を開放してもらって、そこでもう、自宅学習じゃないですけど、課題を勉強して、その時間前にバス停の方に移動することをお願いすると同時に、南国バスの方に、6時台のバスの時間帯を何とかできないかという、そういう相談を今、さしてもらってる、ですから、保護者の方のそういった困り感が分かりましたので、そういった対応をしたところでした。中には、バス停で1時間ぐらい待ってる子どもたちもいて、そこが分からなかったもんですから、私たちもちょっとそこは課題かなと。

で、尾崎小の2人の子どもについても、昨日ちょっと、私の方で学校に行って、その子どもたちに聞いたところ、今のところ、そういう困り感は無いつて言いましたが、子どもとまた大人の考えも違うと思いますので。その子たちの実態は把握しました。

(西平市長)

はい、ありがとうございます。

他に何かございますか。

よろしいですかね。

概ね、御意見も出たと思うところでございます。

今回ですね、先ほど冒頭でございましたように、適正配置を進めるための基準について、今回追加の考え方が示されたところでございます。

また、主なスケジュールとしまして、5月中に学校規模適正化協議会を開催すると、そしてその後に保護者への説明・意見交換会を行っていくということでございますが、また今後もですね、保護者に丁寧に説明をするということと、意見交換会をしっかりとやっていくということを重きを置きながら、学校規模適正化については、しっかりと進めてまいりたいということでございます。今、いただいた御意見等を踏まえながらですね、学校規模適正化に関する基本的な考え方、今後の方向性スケジュール等については、ただいま協議させていただいたとおり、進めていくということでよろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(西平市長)

もちろんいただいた意見も生かせるところをしっかりと生かしながら、今後の協議会の中では、協議をしていくと考えております。御異議が無いようでございますので、ただいま協議したとおり進めていくということで御理解の程お願いいたします。

次に、議案の2番でございます。

部活動の地域移行に関することではありますが、教育委員会の方から、これは、学校教育課長からですかね、説明をお願いします。

(学校教育課長)

はい、よろしくお願いいたします。

これからお手元に配布してございます資料を用いて、阿久根市における部活動の地域移行に関する説明をいたします。資料については、部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針として1枚にまとめてございます。教職員、保護者、生徒をはじめ、地域の方々に配布する予定でございます。本資料をもとに説明をさせていただきます。

はじめに、部活動とは学校教育活動の一環として、生徒の自主的、自発的な参加により行われ、異年齢との交流の中で、生徒同士や教員と生徒等の人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動をとおして自己肯定感を高

めたりするなど、その教育的意義が高いものでございます。

これまで部活動の顧問、副顧問を引き受けてくれた先生方によって成り立っている教育活動の一つです。しかし、専門外の先生方に無理なお願いをしたり、休日について多くの時間を割いてくださったりしたこと等の課題がありました。

また、管理職自ら顧問になるなどの状況もございます。そして、団体競技においては、学校単独での大会出場が厳しい種目も出てきていることも事実です。

このような中で、生徒や保護者の心情に寄り添いつつ、学校や地域、各種目の実情に応じて地域移行を進めていくことが重要であると考えております。

それでは、資料の裏面を御覧ください。

これは、国が令和4年12月に、「学校活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」というものを示しました。

ここでは、少子化が進む中、教育的意義を継承、発展させ、新しい価値が創出されることを重要視しております。そして、地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てるという意識のもと、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備すること、地域の実情に応じて、スポーツ、文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが強調されております。具体的には、まず、休日における地域等への移行を進め、平日の環境整備はできることから、段階的な体制整備をすることとなっております。また、令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として、地域連携、地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて、可能な限り、令和8年度以降の、地域等への移行をめざしています。

次に、国の答申を受け、本県は、令和5年5月末に「鹿児島県学校部活動の在り方及び地域連携や地域クラブ活動の在り方に関する方針」を示しました。資料裏面にあります、国が示したガイドラインと相違はございません。

それでは、阿久根市の現状について御説明いたします。阿久根市の人口は2020年、令和2年ですが、2020年から2030年の10年間で、19,254人から15,456人に減少し、その後もさらに減少することが予想されています。

また、市内小・中学校の児童生徒については、令和5年度から令和10年度の10年間に小・中学生は、1,239人から1,045人になり、約190人程度減少する見込みです。複数の部活動では、単独での活動がますます困難になるため、新たな活動の場を構築することが必要です。

そこで、本市においては、改革推進期間である令和5年度から、令和5

年度は4回の部活動地域移行推進協議会を行い、ここまで御説明してきたことを踏まえて、基本的な方針について協議してまいりました。本市における新たな活動の場の構築のコンセプトとしましては、資料2に示しますように、阿久根市として、令和8年度以降、地域等への移行ができるように進め、令和9年度以降、地域等への移行が完全にできるように進めることとしております。

資料3、下の方ですが、地域等への移行に向けたロードマップの方を御覧ください。

令和6年度の新チームから、原則、平日の活動は行い、休日については、試合等の引率、試合前の練習等については必要に応じて行うことにします。準備が整った部活道から地域等の移行を実施します。令和7年度の新チームから、原則、平日、休日の部活動は行わないようにし、平日、休日を含め、令和8年度新チームから地域等への移行となるようにし、部員については、他団体への移行を進めることとします。併せて、段階的に令和7年度、8年度の入部停止を検討していく必要があると考えています。このことについては、在籍部員を優先し、柔軟に対応するとともに、小学生とその保護者等へ丁寧に説明していくことが重要だと考えております。部活動地域移行推進協議会を年4回行い、総合スポーツクラブ設立の検討をはじめ、指導者及び活動する運動種目、文化芸術分野等の決定や活動場所の確保や活動回数、活動時間の設定等の運営の在り方の検討、地域クラブ活動は学校外活動であるため、指導者の報酬や保険料、会場使用料、消耗代等の費用負担の検討、財源の確保等について検討していくこととしております。

以上で、説明を終わります。

(西平市長)

学校教育課長からの説明は以上でございますが、この部活動の地域移行に関しましては、本市の方向性について先ほど説明があったところでございます。

この部活動地域移行は、1校だけでは、部活動として活動できなかった種目が、市内の複数校の生徒が集まることで活動ができると。そしてまた、他校の生徒との交流をもつ機会になるというようなメリットが考えられます。また、同時に、教員は勤務時間の短縮、業務負担の軽減につながることも期待がされております。

ただ一方で、適切な指導者がいないというケースや、特に送迎、こういったことでの必要が生じるということから、保護者の負担も増えるのでは

ないかというデメリットも考えられます。

教育委員会では、今年度から来年度にかけ、学校・保護者への説明周知を行い、令和8年4月から移行が可能な部活動については、地域移行を実施するということでの方針が示されたところですが、委員の皆様方から、これらのことについて何か御質疑ある方はいませんか。西園委員などは、スポーツ指導の方もやられてますけども、ないですかね。

（西園教育委員）

そうですね。現状としては、中学校でも専門の先生がいらっしゃる部では、やはり、技術的な面での指導がうまくいって、九州大会、全国大会っていう先の競技力向上につながってると思うんですけども、その一方で、やっぱり部活動がもう実際、野球部も、昨年度は部活動の部員がゼロということで、今年度1年生がまた何人か希望者がいたってということで、休部の状態からまた活動開始ということで、専門の先生がいらっしゃるの、実際野球部もまた、今年度は活動する。ただし、人数がやっぱり今、現段階で1年生が5名ぐらいですかね、入った段階なので、やはり単独では出れないんですよね。やっぱりどこかと合同チームという形になります。実際、阿久根陸上の少年団の方も、やっぱり基礎的なところからやってるので、陸上の先の伸びとかそういうところでも、小学校で培ったものが中学校で専門の先生がいらっしゃらないと、せっかく。

（西平市長）

伸びていかない？

（西園教育委員）

はい。

なので、いらっしゃるときにはいいんですけども、その辺りがやっぱり。でも競技を考えると、短距離、長距離、専門の競技があるとなると、先生方もやっぱり自分たちも分からないから、他の先生方の協力をもらって、勉強されたりとか、実際、部活に長距離の子が入っていたり、メニューがやっぱり短距離メインになると、中学校の部活では競技力向上が望めないということで、また、スポーツクラブの方に移行したりっていう現状もあったので、やはり部活の存続っていう形では、それぞれ考え方も保護者も子どもですけど、競技力を向上させたいのか、それとも体力づくりメインでっていう保護者もいらっしゃるの、この部活動と地域移行ということになると、スポーツクラブメインっていう、クラブチームになるので、

がつつりさせたいっていうところと部活動の体力づくりっていう、その観点から違ってくるとその辺りも難しいところかなっていうところと、指導者が学校の先生と、クラブチーム、地域移行ということで、指導の方針とかもまた違うと子どもたちもすごく混乱して、どっちに付いていいのかっていうところもなかなか難しいので、その指導する指導者をしっかり決めてサポートという形にしていかないと、その指導者同士の意見というのもしやっぱりととても大事になると思うんで、それが中途半端だと、結局子どもたちが宙ぶらりんになってしまって、どうしていいのか、平日だけ土日だけってなっても。その辺りの移行がしっかり、指導者、地域との話も大事だと思うんですけども、せっかくですね、その陸上も、 先生がされてて良い子たちが育つのに、その後が、教えられないっていうもどかしさもあるみたいで。なので、そういう意味では、部活動との連携もしながら、そうやって選手を育てていくっていう環境があれば、すごくまた協力を得ながらですね、できればいいのかなというところもありますね。サッカーとかもいろいろクラブチームもありますよね。で、阿久根市からもすごくサッカーも良い子たちが、その後も育ってるので、そういう若い子たちが帰ってきて、指導をしてくださったりとか、何かその定期的じゃなくてもいいですので、いろんな形で、今までその、されてた方たちが指導に来てくれたらすごくいいのではないかなという、サポート体制ですね、と思います。

（西平市長）

ありがとうございます。

古賀先生も以前、少年団の指導などをされてましたけれども、どうですかね。何か話せることなどございませんでしょうか。

（古賀教育委員）

はい。

今、少年団もですね、随分、入ってくれる人がいなくなってですね。本当、厳しい状態になってはいるんですが、ただ、入ってくる何人かは、意欲があって、優秀な子どもたちがいて、それなり実績を残してっていうのはあるんですが、三笠の場合はですね、今、70代なんですけど、 先生が帰ってきて、大学で柔道部であって、今70代の高齢者大会と同じような大会でも全国大会に出るっていう人がいて、子どもたちを面倒見てくれるんです。それで、そういう人がいればですね、やっぱり子どもたちが好きになってくると思うんです。とにかく少なくとも、どうにかできていると

ということです、今度、体協の理事会が、市のがありますね。今度、資料を出してくださいということで回ってきたんですが、今度の役員はどうなってるかっていう。そのときにやっぱり、この、バスケ、それからサッカーとかそれは相当な人数がいますからいいんですけど、みんな、体協が好きな人は何か応援してっていうようなその体制になればいろんなところで活躍して帰ってきた人も、また、そういう■■■■先生のような感じの人が出てくると思うんですね。ですから、やっぱりそういう会合でも呼びかけてみてですね。やってもらえたらと思いますけど。

（西平市長）

指導者の掘り起こしとしてですね。

（古賀教育委員）

はい。

（西平市長）

わかりました。

あと、どなたか、何か御意見ありますか。

（大漉教育委員）

あ、ちょっと。

（西平市長）

どうぞ。

（大漉教育委員）

ちょっと、お聞きしますが、スポーツ系は大体集まるような気もするんですけど、文化芸術活動ですね、これが今、地域移行になっているのが、何か一つでもありますか。

（西平市長）

文科系。絵画、将棋、吹奏楽。

（中野教育長）

ないです、今のところ。

(西平市長)

ないですね。

(大漣教育委員)

今後進めていこうとすれば、例えば、合唱のコール三笠とか、生涯学習が、いろいろ、俳句とか色んなものがありますよね。ああいうような講師の方々にも、子どもたちに中学生から入れてもらえんかというようなところから進めていく、あるいは、寺島会だったりですね、いわゆる郷土の人をちょっと調査研究する、そういうようなとか、意外と同時に進めていけば出てくるんじゃないかなっていう気がしますけれども。

(西平市長)

文科系の部活動の地域移行の話ですね。

(大漣教育委員)

地域移行ですね。

(西平市長)

指導者についても、今ある講座なんかを指導されている先生なんかをですね。

(大漣教育委員)

スポーツ系はですけど、文化系が結構難しいような気がするんですよ。

(西平市長)

なるほど。

他に何かございませんかね。

(中野教育委員)

良いですか。

(西平市長)

どうぞ。

(中野教育委員)

先ほど、野球部が1年生が5名っていうことは、2年、3年はいない？

(西園教育委員)

ゼロです。

(中野教育委員)

ゼロ。で、今どこと合同で？

(西園教育委員)

それは、まだ多分決まっていはいないと思うんですけど。今、三笠が三地区で。野田とか、人数が足りないところとの話になるので。年度で。毎年、同じではないんですよ。

(中野教育委員)

なるほど。うちの息子も野球部で、1学年上がゼロだったんです。で、2つ上の学年が3人いたきりで。どうしても1校で出たいと言って、いっぱい勧誘をして人数を集めて、何とかだったんですけど、その2つ上の学年の人たちは人数がいなかったんで、三笠中学校と合同で一緒に。うちの息子なんか一緒に合同練習で、三笠中学校の方がグラウンドがすごく綺麗であそこで練習してましたけど、そのときはやっぱり保護者の負担があったような気がします。毎回。

(西平市長)

連れていけないといけないんですね。

(中野教育委員)

ですね。

自分なんかは野球が好きなので、毎回連れて行く分は負担がなかったんで、それこそ皆んなで、連れていったんですけど、ほぼ毎週、三笠中学校にお世話に。

(大漣教育委員)

三笠と一緒に？

(中野教育委員)

はい、三笠と一緒に。

(西平市長)

迎えに行くのは行けても、仮に送っていく分だけしてくれれば、大分負担が少ないでしょうね。

(中野教育委員)

ですね。

(西平市長)

保護者としてはですね。

そういったこともですね、例えば、同時にみんなが行って、その場所で分かれて部活動するような形になると、行くときの負担は、軽減される可能性はないわけじゃないですよ。同時に、バスとかなんとか出すとかいう形でですね。

(中野教育委員)

そうですね。

(西平市長)

あと、僕ちょっと聞いてる中で、少し教育長に伺いたいんですけど、先生の中には、例えば、この種目を指導したいということで、先生を希望されてる方も、いらっしゃるような話を聞くんですね。そういった方々は、おそらく土日に出ることを苦とも思っていらっしゃらない。とはいえ、教育委員会の中にあっても色んなあれがあると思うんですけども。やっぱり先生の中でも、そういう気持ちを持って教職員になられてる方ってのもいらっしゃるもんなんですか。

(中野教育長)

今、私もそのことを、西園委員の質問に対してだったんですが、今、市長がおっしゃるように、部活動の指導をしたいという先生もいらっしゃるんですよ。ですけど、中には、やっぱりもうしたくないという方もいらっしゃるんで。ですから、自分の得意とする部活動がある学校に赴任した先生はいいんですけど、ない学校の先生は、他の競技を教えないといけないってところはものすごく負担です。やっぱり、子どもたちはそういった技術の指導、向上を求めるので、教えないのはすごく負担です。

ですから、この辺も、今市長がおっしゃるように、土日でもいいですよという方がいらっしゃると思うんで、その先生方をどのようにして活用す

るかですけど、業務改善の一つの手立てですので、先生方の勤務時間の中にその時間を考慮しないといけないというのが国の方針なんです。そのバランスとかですね、後は、今までは中学校で部活動で良かったんですけど、地域移行になると、学校を使っていいんですけども、例えば、その指導者によっては、総合グラウンドがいいとなると、そこまで子どもたちは移動しないといけないというのが必ず出てくるので。ものすごく色々な課題があってですね、ハードル高いんですよ。これは、おそらく市長の方からでもいろんな動きをされてると思います。私たちが教育委員会としては、43市町村全部、全然進まないんです。国の方に要望したところ、国は令和8年4月からは、全部移行って言ってたのが、最近、トーンが下がって、もうどっちもいいですよとなってるんです。そこは、この難しさが入り組んでいるから。

阿久根の先生方は、わりとしていただく形が多いような気がします。
そういう現状があることを、御理解ください。

（西平市長）

ありがとうございます。
他、何かございますか。
どうぞ、西園委員。

（西園教育委員）

今年度、1年生、高校1年生になった子が、阿久根中でソフトテニス部だったんですけど、何人かで鶴翔高校に進学して、そこで部活がなかったんですけど、ソフトテニス部をつくってもらったみたいなので、その高校との連携というか施設もありますし、その場所を、指導もですけども、高校だとまた専門の先生もたくさんいらっしゃるのかするので、そういう面でも、阿久根市には鶴翔高校って高校まで連携できる学校の教育環境があるので、そういうところで、鶴翔高校の先生で専門の希望があれば指導していただくとか、そういうところもできれば、すごくまた、小学校からずっと連携して、また良い選手だったりとか。

（西平市長）

鶴翔高校内は、テニスコートあるんでしたっけ？
グラウンドですよ、おそらく。

（西園教育委員）

どうなんですかね。

（西平市長）

グラウンドは、今回新たにしたんで。

（西園教育委員）

私も、その環境自体は分からないんですけど、ないんですかね。

（西平市長）

多分、鶴翔高校の中には。

（西園教育委員）

阿久根市の方のテニスコートがすごくいい施設に変わったので、人工芝に。

（大漣教育委員）

近くですし。

（中野教育委員）

綺麗です。

（西平市長）

確かに、高校生まで一緒に練習することで、中学生の競技力の向上に一番良いと思いますよね、おそらく。

（大漣教育委員）

野球が、出水商業で三笠と阿久根が一緒にやっていました。出水商業が単独で出ていなかったんですよ。しかし、そのメンバーが中心になって、1年に入学したときに一生懸命勧誘して回って、そして、単独で出水商業で出れるようにしたんです。だからそういう力も湧くわけ。

（中野教育委員）

各クラスに回って勧誘して、初心者の子どもたちもたくさんその当時は入りましたね。してみたいって言って。

（西平市長）

確かに、中学校と高校との連携というのも、この部活動の延長では少し考えてもいいですね。連携の中ということでしょう。

（西園教育委員）

鶴翔の野球部の先生もクラブチームの野球に、よく見に来られてるみたいで。

（西平市長）

すごく、有能な指揮者のようで。

（中野教育長）

優秀な先生ですよ。

（西園教育委員）

そうなんですね。なんかよく見に来られてるって言って。

（大漣教育委員）

中高連絡会というのはありますからね、積極的にそんなのを出していけばいい。

（西園教育委員）

そういう指導者がいるってわかればまた、進学、鶴翔高校にとっても良いと思いますので。

（西平市長）

指導者ありきで通わせたいっていう保護者の人たちもいますからね。

（中野教育委員）

阿久根中学校のテニス部が強いですしね。

（大漣教育委員）

鶴翔、バレーがちょっと。

（中野教育委員）

ですね。

(西平市長)

今も強化部活のチームにはなってますよ。強化指定の。鶴翔の中では、女子バレーは。

(西園教育委員)

高校も維持存続が、難しいみたいです。男子バレーも無くて、違うところに行ったという話も聞いたので、バレーボールもなかなか人数がいないと。

(中野教育委員)

テニスは集めやすいかもですね。2人いればできる。

(西平市長)

わかりました。

他に何か御意見等ございますか。よろしいですか。

それでは、御意見、御質疑等ございますけれども、この部活動の地域移行につきましては、先ほど、教育委員会の示した考え方、スケジュールで進んでいくこととしておりますが、その方向でよろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(西平市長)

また、出た御意見についてはですね、今後の個々の進める中で、取り入れる部分は、取り入れながら、進めていければと思っておりますので、教育委員会の方はそういうことで、よろしくお願いしたいと思います。

協議事項の3番目でございますがその他でございます。

教育に関することを含め、本市の教育行政等について、何かございましたら、どなたでも結構ですので、何かございますでしょうか。

よろしいですか。

ちょっと質問をしたいところなんですけど、今年度、小学校の運動会の方が、10月の後半ぐらいになるということで、それに併せて華の50歳組をそっちでやるということでしたよね。中学校の方は、これまでと変わりなく、9月の半ばぐらいってことでよろしいでしょうか。

(中野教育長)

はい、中学校もですね、できれば熱中症対策で、動かしたいですけど、やっぱり今年度までは、9月の第2週に。

(西平市長)

ぐらいですね。

(中野教育長)

はい、変わらないです。小学校だけが10月ですね。

(西平市長)

わかりました。

他に何か皆様方からございますか。

よろしいでしょうか。

よろしいですか。

はい、ないようでございますので、協議事項については以上とさせていただきます。本日、予定してました協議事項は、以上とさせていただきます。円滑な審議に御協力いただきまして、ありがとうございました。それでは、事務局の方で進行をお願いします。

(進行)

市長、進行の方、ありがとうございました。

また、委員の皆様、御意見等いただきまして、誠にありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、本日の総合教育会議は、終了をさせていただきます。

どうもありがとうございました。